

## 第4学年2組 国語科学習指導案

授業日 平成29年9月29日(金) 授業B  
授業者 附属新潟小学校 教諭 桑原 浩二  
会場 4年2組教室

### 1 単元名

2分の1成人の主張—学級を改善しよう—  
(東京書籍『新編 新しい国語』四上 わたしの考えたこと)

### 2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の「B書くこと」及び新学習指導要領において関連のある指導事項を受けて設定する。

#### 【学習指導要領】

- (1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。
- ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。
  - イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。
  - ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
  - エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。
  - オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。
  - カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。

#### 【新学習指導要領】

〔思考力・判断力・表現力等〕 B 書くこと

- ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
- イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。
- ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

本単元では、「課題設定や取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」(以下、「文章化過程」といった一連の書くことの学習過程を重視したうえで上掲の指導事項イに重点を置く。なお、本単元は書くことの学習における「感想・意見」の系統として位置付けられる。本単元には、次の三点の価値がある。

一つめは、自分の考えをもつ、深めることができる点である。本単元のねらいは、身の回りで起きた出来事や体験したことを通して、自分の考えとその理由を明確にして、構成を考えて文章を書くことである。このような学習において、子どもは、題材に沿った自分の考えをもつことができる。それだけではなく、伝えたいことが相手に伝わるかという視点で文章の構成を考えたり、友達と検討し合ったりすることを通して、自分の考えをさらに深めることができる。なお、新学習指導要領においても「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること」が示されている。自分の考えをもつ、深めることは、書くことの能力を育むだけでなく、実生活、実社会に生きて働く国語の力となる。

二つめは、文章化過程を理解できる点である。本単元は、日々の学級生活の中で感じたことや考えたことを伝える文章を書く学習を通して、文章化過程に必要な力を総合的に育むことができる。文章化過程を理解できれば、自ら学び、課題を解決していくことができる。また、子どもは、思い付いたことを羅列して書くのではなく、「自分の考え」「考えの理由」「考えるきっかけとなった出来事」という段落をつくることを通して、それらの段落をどのような順序で並べるかという段落の配列について理解することができる。したがって、文章化過程の中でも文章の構成の仕方について重点的に指導できる。

三つめは、他教科等の学習においても本単元で学習した文章の構成を活用できる点である。先述した「自分の考え」「考えの理由」「考えるきっかけとなった出来事」という段落は、様々な文章を書くときにも重要となる。そのため、算数科や理科などの授業において、問題の解き方を説明したり、実験の結果を考察したりする際に書く文章において、本単元での学びが活かされる。

### 3 本単元で目指す姿

文章化過程の往還を通して、意図をもって文章を構成する子ども

具体的には、相手と書く言葉との関係を言葉の使い方に着目してとらえたり問い直したりするという「見方・考え方」を働かせ、文章の構成を考える力などを発揮して文章化過程における「課題設定や取材」「構成」「記述」の過程を行きつ戻りつしながら段落の配列を考え、「ぼくは、『自分の考え』『考えの理由』『考えるきっかけになった出来事』の順番に付箋紙を並べて、文章の構成を考えました。『自分の考え』を始めにもってきた理由は、ぼくの伝えたいことをすぐに伝えると読み手に伝わると思ったからです」などと、意図をもって文章を構成する姿。

### 4 本単元で育成する資質・能力

単元カード参照

## 5 指導計画 全7時間 (210)

単元カード参照

## 6 指導の構想

まず、単元の導入として、「学級を豊かにするために身の回りのことから考えたことを文章に書いて伝えよう」という言語活動を提示する。しかし、言語活動を提示しただけでは、自分の考えがもたずに悩む子どももいると考えられる。そこで、自分の考えをもたせやすくするために、1週間程度の取材期間を設定する。一人一人に付箋紙を配付しておき、この取材期間に、身の回りで起きた出来事や体験したことの中から考えたことを付箋紙に書き溜めるよう指示する。その際、「自分の考え」「考えの理由」「考えるきっかけになった出来事」等のまとまりで記述させる。子どもは、この付箋紙を基に、伝えたい自分の考えを仮決定する。ここで、様々な考えを表出させたり考えを練り直させたりするために、学級全員の伝えたい自分の考えをまとめた一覧表を提示する。子どもは、その一覧表を参考にすることで「学級全員で35人36脚に挑戦する」などと、伝えたい自分の考えを決定する。

次に、文章の構成を考えさせる。伝えたい自分の考えを仮決定した子どもは、これまでの書くことにおける学習経験から、事柄を整理するための思考ツールである構成表及びタブレット端末のアプリ（以下、Post-it Plus）を活用して文章の構成を考える。しかし、この段階における文章の構成は、段落と段落とのつながりが曖昧で、伝えたいことが明確に伝わる構成になっていない。つまり、伝えたいことを相手に伝えようとする意図が不明確なままの構成に終始しているのである（C0）。

### 働き掛け1

**グループでの勝ち抜きトーナメントの場を設定し、トーナメント後に分かったこと・考えたこと・思ったことを問う。**

これは、問いをもたせ、学習課題を設定させるための働き掛けである。

文章の構成を考えた子どもは、文章を記述する。ここで、記述した文章を互いに読み比べる勝ち抜きトーナメント（以下、「どっちの文ショー」）を設定する。「どっちの文ショー」とは五人で一つのグループとなり、その中の二人が対一の勝負を展開する活動である。このとき、「どちらの文章が伝えたいことが相手に伝わるか」という視点で、ほかの三人が勝敗を決める。「どっちの文ショー」を設定する目的は、文章の優劣を決めることではなく、勝敗後の共有タイムにおいて、どこに問題があったのか、どこがよかったのかについて互いに伝え合い、共有することにある。すなわち、伝えたいことが明確に伝わらない文章であることに気付かせたい。子どもは、相手に伝わるかどうかを友達から評価してもらうことにより、「このままでは私の主張が伝わらないな」などと、自分の文章が相手に伝わりにくいことをとらえたり、または、「みんなからよく書けているよと言われたから、ぼくの文章は伝えたいことが読み手に伝わるんだな」などと、自分の文章に対してある程度の自信をもったりする。これは、**相手と書く言葉との関係を言葉の使い方に着目してとらえたり問い直したりする**という「見方・考え方」が引き出され始めた姿といえる。なぜなら、「伝えたいことが相手に伝わる文章か」という視点で自分の文章を読み返し、言葉の使い方に着目して問い直しているからである。

ここで、「どっちの文ショー」を通して、分かったこと・考えたこと・思ったことを問う。すると、子どもは、思いや考えを伝えようとする態度（③態度）を発揮し、「もっとパワーアップさせた文章を書きたい」「もう一度、文章を書き直したいな」「文章の構成をほかのパターンにするとよさそう」などと、文章をよりよく書きたいという思いを抱く。このような姿を問いをもった子どもの姿とする。

その後、文章をよりよく書きたいと考えている子どもは、「伝えたいことが相手に伝わる文章を書くためにはどうすればよいか」と学習課題を設定する。このような子どもに、次のように働き掛ける。

### 働き掛け2

**二つの教材文を提示し、どこをどのように再考したかを問い、自分の文章に必要な課題解決の方策を選択させる。**

これは、学習課題を解決するための視点を明確にさせ、見通しをもたせるための働き掛けである。

学習課題を設定した子どもは、文章を書き直していきたいと考えているものの、どのようにすればよいかという具体的な見通しをもっていない。そこで、二つの教材文を提示する。二つの教材文とは、草稿段階の文章（教材文A）と再取材及び再構成して練り上げた文章（教材文B）である。再取材及び再構成の前後を示すことで、文章化過程を往還して記述していくことの有用性に気付かせる。

子どもは、二つの教材文を読み比べることにより、「どのようにしたら教材文Aを教材文Bのようにできるのか」と疑問をもち始める。そこで、「どこをどのように考え直すよいか」などと、教材文Bは、教材文Aのどこをどのように再考したかを問う。子どもは、**相手と書く言葉との関係を言葉の使い方に着目してとらえたり問い直したりする**という「見方・考え方」を働かせて、「インタビューをして情報を加えるとよい」「段落の順序を変えて構成し直すとよい」などと、「課題設定や取材」及び「構成」の過程で再考すれば、伝えたいことが伝わる文章になると気付き始める（①知識・技能）。

このような子どもに、「伝えたいことが相手に伝わる文章とするために、どのようなやり方で文章を考え直していくか」などと、自分の文章に課題解決の方策を選択させる。子どもは、「もう一度書くことを集めたい文章の構成を考え直したりすれば、伝えたいことが相手に伝わる文章が書けそう」などと、伝えたいことが相手に伝わる文章とするために必要な再取材及び再構成などの方策をいくつか選択する。そして、文章化過程を「課題設定や取材」「構成」の過程まで戻ってみることで学習課題を解決できそうだと見通しをもつ。このとき、**相手と書く言葉との関係を言葉の使い方に着目してとらえたり問い直したりする**という「見方・考え方」が明確に設定される。また、子どもは、「構成表やPost-it Plusを使えば文章の構成を考え直せそう」などと、再構成をするためには構成表やPost-it Plusが有効であると考えて（ツール活用能力）。このような子どもに、次のように働き掛ける。

### 働き掛け3

**付箋紙をどのように並べ直すかを問い、複数の文章の構成を提案させる。**

これは、必要な情報を整理させ、文章を再構成させるための働き掛けである。

学習課題を解決するための見通しをもった子どもに、「付箋紙をどのように並べ直すか」と問う。子どもは、**相手と書く言葉との関係を言葉の使い方に着目してとらえたり問い直したりする**という「見方・考え方」を働かせて、構成表やPost-it Plusを使い、伝えたい自分の考えに合うように付箋紙を並び換えることで、文章を再構成する（②思考力・判断力・表現力）。このとき、子どもが考える構成は、主張をすぐに伝えるために「自分の考え」を始めにもってくる「すぐ型」と、主張をひきつけて伝えるために「きっかけになった出来事」等を始めにもってくる「ひきつけ型」との二つに大別される。なぜなら、5月に学習した説明的文章「ヤドカリとイソギンチャク」において、頭括型を「すぐ型」、尾括型を「ひきつけ型」と名付け、それぞれの構成の効果を学習しているからである。子どもは、そのときの学習を想起し、「ぼくの伝えたいことを相手に伝えるためには、『ひきつけ型』がいいかな」「私は、『どっちの文ショー』のときに『ひきつけ型』で構成して伝わらなかったから今度は『すぐ型』にしてみよう」などと、付箋紙の並べ方を考える。その際、文章の構成を一つに限定させるのではなく、「すぐ型」「ひきつけ型」を基本とした複数の文章の構成を考えるように指示する。

なお、中には、再取材をして必要な情報を補いたいと考えている子どももいる。そのため、図書や資料、インターネット、インタビュー、アンケート、体験の想起等による再取材も同時に行わせる。子どもは、再取材で得られた情報を付箋紙に書き出し、その情報を取り入れて文章を再構成する。

このような子どもに、ペアの友達へ複数の文章の構成を提案させる。子どもは、「伝えたい自分の考えに合う付箋紙の並べ方は、『考えるきっかけになった出来事』『考えの理由』『自分の考え』の『ひきつけ型』です。なぜこのように付箋紙を並べたかという、読み手をひきつけて伝えることができからです」などと、ペアの友達に説明する。それに対してペアの友達は、「佳輝さんの構成は、『自分の考え』を始めと終わりにもってきていて、すぐに伝わるからいいよ」などと、助言する（協働性）。

#### 働き掛け4

文章の構成を最終決定させ、判断した理由を問う。

これは、意図をもって文章を構成させるための働き掛けである。

複数の文章の構成を友達に提案し、助言をもらった子どもは、どのような構成にすればよいか悩んでいる。このような子どもに、「付箋紙の並べ方を最終的に決めましょう」などと、最終的な文章の構成を決定するよう指示する。子どもは、友達の助言を参考にして、最終的な文章の構成を決定する。

そして、最終的な文章の構成を決定させた後、「どのような順番で付箋紙を並べたか、それはどうしてか」などと、判断した理由を問う。理由を問うことで、構成の意図を表出させる。子どもは、「ぼくは、『自分の考え』『考えの理由』『考えるきっかけになった出来事』の順番に付箋紙を並べて、文章の構成を考えました。『自分の考え』を始めにもってきた理由は、ぼくの伝えたいことをすぐに伝えると読み手に伝わると思ったからです」などと、文章化過程を往還したことを通し、「読み手にすぐ伝えるため」「読み手をひきつけて伝えるため」などと、構成の意図を表出する。

このようにして、文章化過程の往還を通して、意図をもって文章を構成する子ども（Cn）となる。

#### 働き掛け5

再度文章を記述させ、これから文章を記述していく際に考えていきたいことを問う。

これは、これまでの学習を振り返らせ、発揮した資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

文章の構成を最終決定した子どもに、「最終的に決めた付箋紙の並べ方で文章を書きましょう」などと、再度文章を記述させる。子どもは、構成表やPost-it Plusを用いて最終的な文章を記述する。このような子どもに、「これから文章を記述していく際に考えていきたいことはどんなことか」と問う。すると子どもは、**相手と書く言葉との関係を言葉の使い方に着目してとらえたり問い直したりする**という「見方・考え方」を働かせて、「これから文章を書くときには、伝えたいことが相手に伝わるように、伝えたいことに合わせて段落の配列をよく考えて文章を書いていきたいです」などと、意図をもって文章を構成できたことを自覚する（①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度）。

## 7 本時の構想（本時 3 / 7 時間）

### (1) ねらい

「どっちの文ショー」を行うことを通して、「取材に戻ってもう一度書くことを集めてみる必要がある」「文章の構成を考え直してみるとよさそう」などと、「課題設定や取材」「構成」の過程まで戻することで、学習課題を解決できそうだと見通しをもつことができる。

### (2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- 文章を書く際に構成表やPost-it Plusを使うと、伝えたいことを整理しやすくなるという有効性を感じている。
- 5月に、読むこと領域の単元、「ヤドカリとイソギンチャク」において、段落同士の結び付きを考えて読み、文章のまとまりをとらえる学習を行っている。「自分の意見」を「始め」にもってくる構成（頭括型）を「すぐ型」、「自分の意見」を「終わり」にもってくる構成（尾括型）を「ひきつけ型」、「自分の意見」を「始め」と「終わり」の両方にもってくる構成（双括型）を「ダブルドッカーン型」と名付け、筆者がどのように説明しているかを学習している。また、「すぐ型」には、主張をすぐに伝える効果があり、「ひきつけ型」には、主張をひきつけて伝える効果があることを理解している。
- 身の回りの出来事や体験したことから、「自分の考え」「考えの理由」「考えるきっかけになった出来事」等を付箋紙に書き溜め、Post-it Plusに蓄積している。
- 伝えたいことを相手に伝えようとする意図が不明確なままの構成に終始している。
- 構成表やPost-it Plusを基に、草稿段階の文章を記述している。

### このように働き掛けると【働き掛け1】

- グループでの勝ち抜きトーナメントの場を設定し、トーナメント後に分かったこと・考えたこと・思ったことを問う。
  - ・説明「今日の学習では、友達とお互いの文章を読み合う『どっちの文ショー』を行い、伝えたいことが伝わる文章になっているかについて考えていきましょう」
- ※ 「どっちの文ショー」の行い方は、次のとおり。
  - ①事前に全員が全員の文章を読んでおく（タブレット端末を活用する）。
  - ②事前にくじ引きを行い、5人でグループになる。
  - ③「文章を読み合う時間」「判定する時間」「共有する時間（共有タイム）」の3ステップで1回戦を行う。特に、共有タイムでは、どこがよかったのか、どこに問題があったのかについて伝え合う。
  - ④5人をA・B・C・D・Eとする。第1回戦はA対Bで判定者がC・D・Eとなる。このように、第4回戦まで行い、グループ内チャンピオンを決定する。
  - ⑤「どちらの文章が伝えたいことが相手に伝わるか」という視点で勝敗を決める。
- ※ 教師がタイムキーパー役となる。判定する時間と共有する時間とを数分ずつに区切り、合図を出す。これを4回繰り返す。子どもにはトーナメント表を記述するように指示する。
  - ・指示「それでは、『どっちの文ショー』を始めましょう」
- ※ 「どっちの文ショー」の共有タイムにおいて、自分の文章が伝えたいことが伝わる文章になっていないことに関する発言やつぶやきがあった場合、挙手を求めて同意を確認する。
  - ・発問「『どっちの文ショー』を行って見て、皆さんが分かったこと・考えたこと・思ったことは、どんなことですか」
  - ・指示「分かったこと・考えたこと・思ったことをワークシートに書きましょう」
- ※ ワークシートを配付する。
- ※ 子どものつぶやきを拾い、発表させる。
- ※ 「文章をよりよくしたい」「書き直したい」という旨の発言及び記述があった場合、挙手を求めて同意を確認する。
- ※ 子どもの発言を整理して、学習課題「伝えたいことが相手に伝わる文章を書くためにはどうすればよいか」を設定させる。

### このようになり (C1)

- 「どっちの文ショー」を行い、友達の文章を読み比べることで問いをもち、本単元で追究する学習課題を設定する。
  - ・ぼくは、「どっちの文ショー」の第1回戦で負けちゃったよ。ぼくの文章は思っていたより、読み手に伝わっていないんだな。
  - ・ぼくは、「どっちの文ショー」で、第2回戦まで進んだよ。伝えたいことをもう少しはっきりさせて内容を考えると、相手に伝わる文章になりそう。
  - ・私は、「どっちの文ショー」で、グループ内チャンピオンになったよ。次もチャンピオンになれるように、文章の構成をさらに考え直していきたい。
  - ・真史さんの文章は、「考えの理由」に説得力がないから、もう少し理由を詳しく書いたり、情報を集めたりした方がいいよ。
  - ・愛美さんの文章は、文章の構成を「すぐ型」から「ひきつけ型」に変えて、読み手をひきつけて伝えると、伝えたいことがよく分かるよ。
  - ・遥さんの文章は、伝えたいことがすごくよく伝わってくるよ。どうして、「すぐ型」にしたのか教えて。
  - ・もっとパワーアップさせた文章を書きたい。そうすれば、伝えたいことが伝わりそう。
  - ・もう一度、文章を書き直したいよ。
  - ・このままでは伝わらないから、「取材」や「構成」に戻って考え直してみたいな。
  - ・「考えの理由」をもっと詳しく書けばよかった。
  - ・友達の文章の構成を真似して、構成の仕方を変えてみたい。
  - ・学習課題は、「伝えたいことが相手に伝わる文章を書くためにはどうすればよいか」にしよう。
- ※ のように、「どっちの文ショー」を行うことを通して、「伝えたいことが伝わる文章になっていない」などのように、自分の文章が相手に伝わりにくいことに関する発言及び記述、同意の挙手が見られたら、「見方・考え方」が働いた姿と判断する。
- ※ のように、「自分の文章を考え直していきたい」「文章をさらに練り上げていきたい」などのように、文章をよりよくしたいという発言及び記述、同意の挙手が見られたら、③態度を発揮した姿と判断する。

### このように働き掛けると【働き掛け2】

- 二つの教材文を提示し、どこをどのようにに再考したかを問い、自分の文章に必要な課題解決の方策を選択させる。
  - ・説明「文章をよりよくしたい、書き直したいという発言から、伝えたいことが相手に伝わる文章を書くためにはどうすればよいかという学習課題が立てられましたね。これから、どのようにしてこの学習課題を解決していけばよいか考えていきましょう」
  - ・指示「これから皆さんに、ある友達が書いた文章の教材文Aを見せます」
- ※ 教材文Aを配付し、黒板に掲示する。
- ※ 子どものつぶやきを拾い、発表させる。
  - ・指示「次に、この友達が書き直した教材文Bを見せます」
- ※ 教材文Bを配付し、黒板に掲示する。
- ※ 子どものつぶやきを拾い、発表させる。

- ・発問「教材文Bは、教材文Aのどこをどのように考え直したのでしょうか」
- ・指示「ワークシートを配ります。皆さんの考えをワークシートに書きましょう」
- ※ ワークシートを配付する。
- ※ 子どものつぶやきを拾い、発表させる。
- ※ 文章化過程を「課題設定や取材」「構成」に分け、これらの過程の何が問題点なのか、どのように考え直していけばよいのかについて、子どもの発言を整理して板書する。
- ※ 再構成をするためには構成表やPost-it Plusが有効であるという発言があった場合、全体で共有させる。
- ・指示「伝えたいことが相手に伝わる文章とするために、皆さんは、どのようなやり方で自分の文章を考え直していきますか。皆さんの考えをワークシートに書きましょう」
- ※ ワークシートを配付する。
- ※ 子どものつぶやきを拾い、発表させる。
- ※ 理由が不明確な場合は、問い返す。
- ・説明「もう一度書くことを集めたり、構成表やPost-it Plusを使って文章の構成を考え直したりすれば、学習課題を解決できそうだと考えている人が多いようですね。次の時間では、書くことを集めたり、文章の構成を考え直したりしていきますよ」

### このようになり (G2)

- 文章を考え直していく視点を設定し、学習課題に対する見通しをもつ。
- ・図書館の本、インタビュー、アンケートなどで必要な情報を再取材すれば、教材文Aのように、読み手に伝わる文章になるんだね。
- ・取材に戻ってもう一度書くことを集めてみる必要があるだよ。
- ・伝えたいことを伝えるためには、文章の構成を考え直してみるとよさそう。
- ・ぼくは、Post-it Plusを使い、付箋紙を並び換えて文章の構成を考え直していきます。そうすれば、伝えたいことが伝わる文章が書けそう。
- ・構成表を使えば、自分の考えが伝えられる文章の構成をもう一度考えられそうだよ。
- ・Post-it Plusを使って、付箋紙を動かして文章の構成を考え直せばよさそうだよ。
- ※ のように、再取材及び再構成等の文章化過程を往還することに関する発言及び記述が見られたら、①知識・技能を發揮した姿と判断する。
- ※ のように、構成表及びPost-it Plusを使って学習を進めたいという発言が見られたら、ツール活用能力を發揮した姿と判断する。

本時ここまで

### このように働き掛けると【働き掛け3】

- 付箋紙をどのように並び直すかを問う。
- ・説明「昨日の授業では、必要な情報を取材し直したり、構成表やPost-it Plusを使って文章の構成を考え直したりすれば伝えたいことが相手に伝わる文章が書けそうだと見通しをもちましたね。今日は、再取材や再構成をすることを通して、伝えたいことを相手に伝えるための文章の構成について考えていきます」
- ・発問「皆さんは、伝えたいことが相手に伝わる文章とするために、どのように付箋紙を並び直しますか」
- ・指示「構成表やPost-it Plusを使って文章の構成を考え直しましょう」
- ※ ペアや班で話し合いながら進めてもよいこととする。
- ※ 「伝えたいことが相手に伝わる文章とするためには、どのように付箋紙を並べるか」という本時における学習課題を設定する。
- 複数の文章の構成を提案させる。
- ・指示「ペアの友達に自分が考えた付箋紙の並べ方を提案しましょう。伝えたいことが相手に伝わる構成になっているか、互いにアドバイスしましょう」
- ※ 提案させる際には、どうしてそのような付箋紙の並べ方にしたのかという質問や、ほかの文章の構成の方がよいのではないかという助言をするように指示する。
- ※ Post-it Plusを活用したいと要望があった場合、タブレット端末及び付箋紙を配付する。

### このようになり (G3)

- 伝えたい自分の考えが相手に伝わるように付箋紙を並び換え、複数の文章の構成を考える。
- ・ぼくの「学級全員で35人36脚に挑戦する」という考えを伝えるためには、「自分の考え」「考えるきっかけになった出来事」「考えの理由」/「自分の考え」「考えの理由」「考えるきっかけになった出来事」の順番の「すぐ型」で付箋紙を並べます。
- ・「考えるきっかけになった出来事」「考えの理由」「自分の考え」/「考えるきっかけになった出来事」「自分の考え」「考えの理由」の順番の「ひきつけ型」で付箋紙を並べると、私の「週に1回はお楽しみ会をする」という考えが伝えられそうです。
- ※ のように、伝えたい自分の考えを伝えることに関する発言及びつぶやきが見られたら、「見方・考え方」を働かせている姿と見なす。
- ※ のように、「自分の考え」を始めにもってくる「すぐ型」もしくは「考えるきっかけになった出来事」を始めにもってくる「ひきつけ型」のどちらかで付箋紙を並べたら、②思考力・判断力・表現力を發揮した姿と判断する。
- 複数の文章の構成をペアの友達と提案し合う。
- ・佳輝さんの構成は、「自分の考え」を始めと終わりにもってきていて、すぐ伝わるからいいよ。
- ・香澄さんの構成は、「考えるきっかけになった出来事」を始めにもってきて、ひきつけ型がよく伝わると思うよ。

- ※                   のように、伝えたい自分の考えに対して「自分の考え」を始めにもってくる「すぐ型」もしくは「考えるきっかけになった出来事」を始めにもってくる「ひきつけ型」のどちらかで付箋紙を並べたら、②思考力・判断力・表現力を発揮した姿と判断する。
- ※                   のように、ペアの友達に質問したり、助言したりする様子が見られたら、協働性を発揮した姿と判断する。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- 文章の構成を最終決定させ、判断した理由を問う。
  - ・指示「それでは、伝えたいことが相手に伝わる文章とするために、付箋紙の並べ方を最終的に決めましょう」
- ※ ペアや班で話し合いながら進めてもよいこととする。
  - ・発問「どのような順番で付箋紙を並べましたか、それはどうしてですか」
  - ・指示「ワークシートを配ります。並べ方とその理由をワークシートに書きましょう」
- ※ ワークシートを配付し、そのように文章を構成した理由等を記述させる。

このようになる (Cn)

- 最終的な文章の構成を決定し、判断した理由を表出する。
  - ・ぼくは、「学級全員で35人36脚に挑戦する」という考えを伝えるために、「自分の考え」「考えの理由」「考えるきっかけになった出来事」の順番に付箋紙を並べて、文章の構成を考えました。「自分の考え」を始めにもってきた理由は、ぼくの伝えたいことをすぐに伝えると読み手に伝わると思ったからです。
  - ・私は、「週に1回はお楽しみ会をする」という考えを伝えるために、「考えるきっかけになった出来事」「考えの理由」「自分の考え」の順番に付箋紙を並べて、文章の構成を考えました。「考えるきっかけになった出来事」を始めにもってきた理由は、私の伝えたいことはひきつけて伝えると読み手に伝わると思ったからです。
- ※                   のように「すぐ型」もしくは「ひきつけ型」で段落の配列を考え、                  のように構成の意図に関する記述が見られたら、意図をもって文章を構成する子どもの姿と判断する。

このように働き掛けると【働き掛け5】

- 再度文章を記述させ、これから文章を記述していく際に考えていきたいことを問う。
  - ・指示「最終的に決めた構成で、もう一度、文章を記述しましょう」
- ※ 原稿用紙を配付し、再度文章を記述させる。
  - ・発問「これから文章を記述していく際に考えていきたいことはどんなことですか」
  - ・指示「ワークシートを配ります。皆さんの振り返りをワークシートに書きましょう」
- ※ ワークシートを配付し、本單元における学びをワークシートに記述させる。
- ※ 学級全体で振り返りを共有させる。

このようになる

- 様々な資質・能力を発揮したことで課題を解決できたことを自覚する。
  - ・伝えたいことを伝える文章を書くためには、文章の構成を考え直すとよいことが分かりました。ぼくは、構成表やPost-it Plusを使って、自分の伝えたいことに合わせて段落の並べ方を考えました。これから文章を書くときには、伝えたいことが相手に伝わるように、伝えたいことに合わせて段落の配列をよく考えて文章を書いていきたいです。
- ※                   のように、発揮した資質・能力に関する記述が見られたら、発揮した資質・能力（①知識・技能②思考力・判断力・表現力③態度）を自覚した姿と判断する。

## 8 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、                  のように「すぐ型」もしくは「ひきつけ型」で段落の配列を考え、                  のように構成の意図に関する記述が見られたら、意図をもって文章を構成する子どもの姿と判断する。
- ② 働き掛け1から、                  のように、「どっちの文ショー」を行うことを通して、「伝えたいことが伝わる文章になっていない」などのように、自分の文章が相手に伝わりにくいことに関する発言及び記述、同意の挙手が見られたら、「見方・考え方」が働いた姿と判断する。
- ③ 働き掛け1から、次のような姿が見られたかどうかを、子どもの発言、ワークシートへの記述、付箋紙、構成表、Post-it Plus、最終的な文章、実際の子どもの姿、撮影した映像から判断する。
  - ア 働き掛け1において、                  のように、「自分の文章を考え直していきたい」「文章をさらに練り上げていきたい」などのように、文章をよりよくしたいという発言及び記述、同意の挙手が見られたら、③態度を発揮した姿と判断する。
  - イ 働き掛け2において、                  のように、再取材及び再構成等の文章化過程を往還することに関する発言及び記述が見られたら、①知識・技能を発揮した姿と判断する。
  - ウ 働き掛け3において、                  のように、「すぐ型」もしくは「ひきつけ型」のどちらかで付箋紙を並べたら、②思考力・判断力・表現力を発揮した姿と判断する。